

| 第2回横浜市寿町健康福祉交流センター指定管理者選定委員会 議事録 | |
|----------------------------------|---|
| 日 時 | 令和5年5月22日(月) 13:30~17:00 |
| 開催場所 | 横浜市役所 23階N-03会議室 |
| 出席者 | 選定評価委員：阪東委員長、佐藤委員、村田委員、長倉委員、鈴木委員(5人) 事務局：工藤援護対策担当課長、加藤職員(2人) |
| 議 題 | 1 横浜市寿町健康福祉交流センター指定管理者応募団体の審査 |
| 開催形態 | 非公開 |
| 決定事項 | 1 指定候補者として、公益財団法人 横浜市寿町健康福祉交流協会を選定した。 |
| 議 事 | <p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員5名全員が出席しているため、委員会は成立。 ・第1回選定委員会後の経過について、事務局から説明。4月24日から28日まで公募申込受付を行い、1団体から応募があったことを報告。 <p>2 議事(横浜市寿町健康福祉交流センター指定管理者応募団体の審査)</p> <p>【プレゼンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応募団体による30分間のプレゼンテーション ・応募関係書類のほか、最新年度の収支予算書及び横浜市寿町健康福祉交流センターのパンフレットを持参し、説明。 <p>【ヒアリングでの主な質問及びその回答】</p> <p><評価項目1 団体の状況></p> <p>(質問) 指定管理料の増額が認められなかった場合はどのように対応するのか。</p> <p>(回答) これまでよりも指定管理料を2千万円程度増額しているのは、二診制の影響や、診療所の経営・事務を担う人材の登用に伴う増額分である。</p> <p>指定管理料の増額が認められなかった場合でも、数年間は基本財産で賄えるが、この間に何らかの策を打つ必要があると考えている。真っ先に考えられるのは人件費の削減だが、これに伴い、提供するサービスの質や量も低下せざるを得ない。</p> |

<評価項目2 運営ビジョン>

(質問) 貴団体はセンターの設立以前から事業運営を行っていたようだが、センター設立に伴って、団体の基本理念を改定した箇所があれば教えてほしい。

(回答) かつて当団体は日雇労働者の福利厚生事業を行っていたが、寿地区のまちの変化に合わせ、住民の健康づくりや介護予防、生きがいくくりや社会参加・自立支援を軸とした基本理念に改定した。

(質問) かつて貴団体の職員が地域の公衆トイレを楽しそうに掃除しているところを目撃し、とても感動した。このような何気ないかわりが大事だと思うが、現在ほどのくらいの職員が地域に出て活動しているのか。

(回答) ゆめ会議や地域防災拠点委員会の事務局を担う等、地域とは積極的にかかわっている。職員が個人的に地域に出向くこともあるが、これをシステム化したいと考えている。

<評価項目3 職員配置・育成>

(質問) 限られた人数で業務を進めていくなかで、受講できる研修にも限りがあると思われる。受講者による研修内容の報告を共有する機会が重要と考えられるが、職員の研修やOJTについては、どのように進めていこうと考えているか。

(回答) 各班の業務に係る知識やスキルの研修を職員が企画して行っているほか、外部の研修も活用している。ただし、組織的な研修計画については今後の課題と考えている。

研修を受講した職員には、研修の日時や内容、受講した感想を記載した研修報告書を提出させている。

(質問) 令和6年度から、医師に対する時間外労働の上限規制がスタートするため、大学に所属している医師を非常勤医師として確保するのが難しくなると思われる。一団体の努力では難しいところもあるかもしれないが、二診制を行うのであれば、常勤の医者を確保した方がよいと思うが。

(回答) 地域の医師会をあたるとして医師を探してはいるが、なかなか見つからない。現在、横浜市立大学と連携して、大学生や研修医の勉強する場として診療所を提供することになっている。将来の寿地区の理解者、地域医療や総合診療の実践の場とすることで、将来的な医師の確保につながると考えている。

(質問) 大学生や研修医の受入れには、是非力を入れてほしい。また、社会福祉士や看護師の研修の受入れについても検討してもらいたいが、予定はあるか。

(回答) 社会福祉士や看護師の研修の受入れについては、現在のところ予定していない。

(質問) 金銭の管理は、どこが担当しているのか。また庶務班長が欠員となっているが。

(回答) 金銭の管理は、管理課長と庶務班の職員が行っている。ご指摘のとおり、現在、庶務班長が欠員となっているが、業務班に嘱託を一人配置し、元々業務班にいた職員を一人庶務班に異動させることで欠員をフォローしている。

(質問) 寿地区に今後起こりうる変化も踏まえ、職員の配置・育成についての大まかな方向性があれば教えてほしい。

(回答) 当団体の主たる業務はセンターの運営であり、そのセンターを運営する団体が5年ごとの公募による選定で決まる以上、中長期的な職員の採用・育成についてできることには限界もあるが、人事評価制度を整備する等、できることは行っている。

<評価項目4 施設の管理運営>

(質問) 災害時のBCP計画は作成しているか。また発災時には、地域の人がセンターに集まってくることが予想されるが。

(回答) 災害対策マニュアルは策定しており、BCP計画もそのなかに含まれている。

発災時の避難所は「寿労働センター」であることをアナウンスしているが、センターにも人は集まってくると思われる。集まっ

てきた避難者に対しては、簡易宿泊所が倒壊していなければ簡易宿泊所へお帰りいただくよう案内する。

(質問) ヒヤリハットや苦情への対応について詳しく教えてほしい。また、それらの職員間での共有は行われているか。

(回答) 苦情の受付は、各班班長や現場をとりまとめている者が対応している。繰り返し同じ苦情を受けることもあるが、職員一人ひとりが、根気よく繰り返しお話することで理解を深めていくという意識をもって対応している。また、苦情を受ける際は、一人にせず、組織で対応することを心掛けている。

職員間の共有については、毎朝の朝礼で必要な共有や伝達を行い、各班班長で行う会議の内容も、各班班長から各職員へ伝達している。

<評価項目5 事業の企画・実施>

(質問) 健康コーディネート室の利用者人数が年々増えている。新型コロナウイルス感染症の影響で健康に対する意識が高まった結果かもしれないが、なにか理由がわかれば教えてほしい。

(回答) 原因は見出せていない。延べ人数なので、同じ人が馴染んで何回も来室している可能性はある。

(質問) 健康コーディネート室の事業は、病院でいう地域連携室のような存在で、非常に重要だと思うが、それだけに、職員が足りるのが不安だ。現在の職員構成を教えてほしい。

(回答) 現在は足りているが、そのような指摘はよくいただく。
職員構成は、保健師が2人、社会福祉士が1人、栄養士が1人の計4名である。

(質問) 地域住民がSNSやホームページを見ることは少ないと思うが、これらはどのような対象に向けて広報するのか。

(回答) SNSやホームページについては、地区内もしくは地区外の事業者や関係団体を対象として広報していく。

(質問) 一般公衆浴場については、次年度は増収が見込まれているが、なにか運営の工夫をしているのか。

(回答) 翁湯の利用者は年々増えている。健康器具や飲み物を置いているが、なにか特別なことを行っているわけではない。

翁湯は交流の場でもあり、交流目的に利用する方もいるように思われる。また、簡易宿泊所にはシャワーしかなく、住民にとっては、翁湯のような大きなお風呂が貴重な場となっていることも考えられる。

(質問) 「利用したくなる」施設へしていくために、どのようなことを行っていくか。

(回答) 企業やサッカークラブとのコラボレーションやスマホの扱い方講座等、利用者にとって面白い、ためになる、と感じていただけるような事業を増やしていけば、「利用したくなる」施設になるのではないかと考える。

(質問) 自主事業は、職員にとってはイレギュラーな業務だと思うが、職員が行える自主事業の件数や、職員の負担がどのくらいのものかについて教えてほしい。

(回答) 自主事業の中には、担当がいる事業もあり、担当が年間計画をたてて行っているものもある。自主事業については、主に業務班の職員が担当しているが、一部庶務班の職員も担当している。

(質問) ことぶき協働スペースとの連携について、聞き書き本がどのようなものか教えてほしい。

(回答) 昨年行った事業で、ことぶき協働スペースの利用者が二人集まって、互いに語り手、聞き手となることで、互いの半生を記録して冊子にしたものである。冊子はことぶき協働スペースに掲示されており、来館者は自由に読むことができる。

<評価項目6 収支計画及び指定管理料>

(質問) 公衆浴場の料金は500円を維持するのか。また、生活保護受給者に対するものも含め、なにか優待制度で実施しているものがあれ

ば教えてほしい。

(回答) 500円は、神奈川県のパブリック浴場の協定価格であるため、変えるのは難しいと考える。生活保護受給者に対する優待制度はないが、翁湯は「濱とも協賛店」であるため、平日に濱ともカードを提示いただければ、料金が安くなる。

(質問) 寄付を呼びかける取組は、今までも行っていたか。

(回答) PRはしているが、お金の寄付はもらったことがない。食料をはじめとする現物の寄付をもらうことが多い。

<評価項目7 加減点項目>

(質問) これまでの経験のなかで、困難だと感じた部分があれば教えてほしい。

(回答) 寿地区の変化を把握して、その時々課題にどう対応していくかを考えていくのが難しいと考えている。

新しいマンションが建つ等、寿地区内は大きく変わってきている。地区内に変化があったとしても、当団体としては、寿地区の住民の健康や交流を大事にしたい。

寿地区には多様な人々が住んでおり、それぞれの人に合ったサービスは何かを見出していくためには、常に最新の状況を把握する努力を続けていくことが大切だと考えている。

(質問) 山谷や釜ヶ崎とは異なり、寿町は簡易宿泊所が中心の町である。そのような町に、これまでとは違うものが入ってくるということで、大変大きな変化であると思う。本当に未来が読み取りにくい状況になっていくと思うが。

(回答) 自分たちだけで判断せず、地域の方々とも相談して、未来を予測していきたい。

【審査結果】

各委員が審査を行い、事務局が集計。結果は以下のとおり。

総得点853点（満点1,050点（加減点項目除く）、得点率81.2%）

最低基準である満点の6割（630点）を上回る結果となった。

【指定候補者選定】

集計結果を受け、横浜市寿町健康福祉交流センターの次期指定候補者として、公益財団法人 横浜市寿町健康福祉交流協会を選定した。

【選定結果報告書】

横浜市寿町健康福祉交流センターの選定結果報告書については、審査にあたり各委員から述べられた意見を事務局でとりまとめ、案を作成した上で阪東委員長に一任して確定することとした。

【審査講評】

- ・全体的には評価している。応募団体は現在の指定管理者であり、これまでの経験を踏まえ、次期についても、しっかり管理をしてほしい。職員の配置・育成については、指定管理制度特有の難しさはあるが、医療や福祉等、非常に専門性が求められる事業であり、職員の育成は重要な課題である。評価の厳しかった他の項目とともに、伸びしろだと思って頑張してほしい。
- ・自主事業では、非常にいい活動をしていると感じる。地域特性が変わりつつあるので、次期については、現在の計画に固執しすぎず、地域の声も聞きながら、柔軟に対応していければよいと思う。
- ・職員が地域に出て活動するようになってから、職員の顔が明るくなってきたように思う。職員がかかわることで地域の活性化にもつながり、またそのような職員のポジティブな気持ちが施設の管理運営にも生かされていくと思うので、これからも、地域に出向く・地域と触れ合う姿勢、寿地区の住民を受け止める姿勢を持ち続けてほしい。
- ・今までの実績はとてもよいと感じるが、常勤の医師を確保しておいた方がよいと考える。
- ・財務状況は厳しいと思われるが、センターの指定管理がとれなかったら運営が立ち行かなくなり、職員の確保にも影響が出てくると思うので、目の前のことだけでなく、先を見据えてどうしていくかを考えてほしい。

3 閉会